

所属	看護学研究科 看護学専攻 看護マネジメント学分野	修了年度	2025 年度
氏名	川村 麻美	指導教員 (主査)	藤井 仁 (小泉 仁子)

論文題目	全国調査からみた大学院進学を志す看護職の特徴と進学意欲の関連要因 —病院に勤務する中堅看護師に焦点をあてて—
------	---

## 本文概要

### 【目的】

本研究は、病院に勤務する中堅看護師を対象に、看護系大学院への進学意欲(関心および検討状況)の実態と、進学意欲に関連する個人要因・職場要因・地域要因との関連を検討した。

### 【方法】

全国の病床数 200 床以上の病院から無作為抽出した 1,000 施設に調査協力を依頼し、QR コードを用いた Web 調査を実施した。対象は臨床経験 5 年以上で役職を有しない中堅看護師とし、625 名(29 都道府県)を分析対象とした。調査項目は基本属性、大学院進学意欲、進学支援制度の認知、自己啓発活動等とした。分析には  $\chi^2$  検定等を用い、地域差は都道府県別に年齢調整を行った標準化該当比を用いて検討した。

### 【結果】

全国 1,000 施設に調査票を配布し、77 施設から返信があり、625 名(29 都道府県)の回答を得た。男性は女性に比べて「進学意欲あり・検討中」の割合が高かった( $p=0.003$ )。看護師経験年数では 20 年未満の群で大学院進学意欲が高く( $p=0.042$ )、最終学歴との間に統計的に有意な関連は認められなかった。

標準化該当比は多くの地域で 90-110 に分布し、大学院進学意欲そのものに顕著な地域差はみられなかったが、近畿地方では相対的に低い傾向がみられた。また、近畿地方では進学支援制度を認知している者の割合も低かった。全国的に、進学支援制度を認知している群は大学院進学意欲が高かった( $p<0.001$ )。さらに、専門書・論文の購読や学会参加などの自己主導的な学習行動は、大学院進学意欲と統計的に有意に関連していた。

### 【考察】

進学意欲は、性別や最終学歴といった個人属性のみでは説明されず、臨床実践の中で形成される課題認識や将来展望と結びつき育まれる可能性が示唆された。自己啓発や研究参加との関連から、大学院進学は自らの問いを明確化し、体系的に探究する学習段階として認識されている可能性がある。さらに、制度の内容よりも制度の認知が進学意欲と関連した点は、制度が「利用可能なもの」として共有される相談可能性や心理的安全性を含む職場文化が関与する可能性を示唆する。地域差は進学意欲の多寡としては顕在化しにくい一方で、教育資源・情報・支援へのアクセス条件の差として作用している可能性がある。

### 【結論】

中堅看護師の大学院進学意欲は、個人属性のみで規定されるものではなく、臨床実践に根ざした課題認識や学習経験と結びつき形成されることが示唆された。進学支援制度については、制度の有無よりも認知が進学意欲と関連しており、心理的安全性を含む職場文化の影響が示された。地域差は進学意欲の多寡としては顕在化せず、教育資源や情報・支援へのアクセス条件の差として進学意欲の具体化に影響している可能性が示唆された。

### 【キーワード】

中堅看護師、大学院進学意欲、生涯学習、進学支援、地域要因